

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：平成29年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業216社
3. 内 訳：製造業55、卸売業25、小売業31、運輸・倉庫業24、観光・サービス業46、建設業35
4. 回答企業数：136社（63.0%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

— 市内景況は、改善している —

前年同期（平成28年10月～12月）と比べた今期（平成29年10月～12月）の状況
今期と比べた来期（平成30年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは4.0で、前年同期と比べ16.5ポイント上昇、4期連続で改善しました。

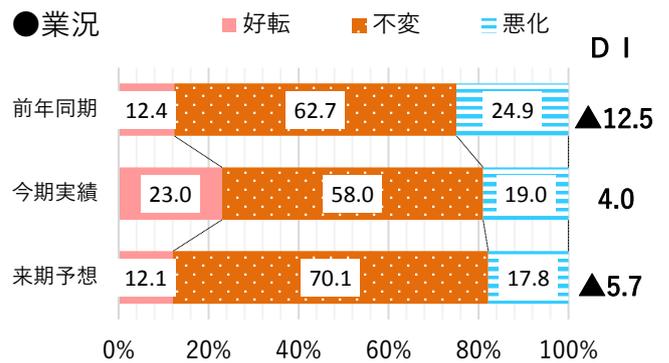
産業別DIは、製造業が金属製品、プラスチック、家具などが好調で同32.2ポイント上昇の12.9、観光・サービス業がインバウンド需要の堅調な推移により同13.5ポイント上昇の10.0、建設業は同11.7ポイント低下しましたが、公共工事の受注増、ニセコ地域の活況などにより11.8で、全体を牽引しました。卸売業は建設需要の高まりから、建設材料、機械器具が好調で同27.3ポイント上昇の0.0、運輸・倉庫業は公共工事に伴う運送量の増加に加え、新型フェリーの高速化・ダイヤ変更により利用が伸び、同20.0ポイント上昇の0.0、いずれも前年同期のマイナス値から改善しました。小売業は中古自動車販売の伸長や北海道物産展の売上が好調でしたが、秋サケやサンマの不漁で苦戦し、同18.1ポイント上昇したものの▲10.5となりました。

来期の業況判断DIは▲5.7で、今期と比べ9.7ポイント低下すると予想しています。深刻な人手不足に加え、水産物の不漁と仕入価格の上昇、産油国の減産やサウジアラビアの政情不安を背景とした原油価格高騰が先行きの懸念材料となっています。

業況、売上、採算

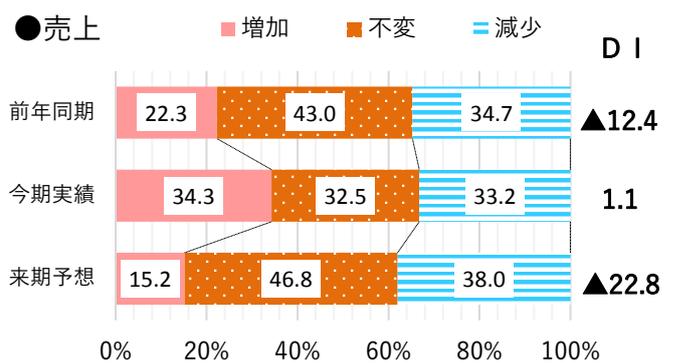
今期（H29.10～12）の業況判断DIは4.0で、前年同期と比べ16.5ポイント上昇しました。

来期（H30.1～3）のDIは▲5.7で、今期と比べ悪化すると予想しています。



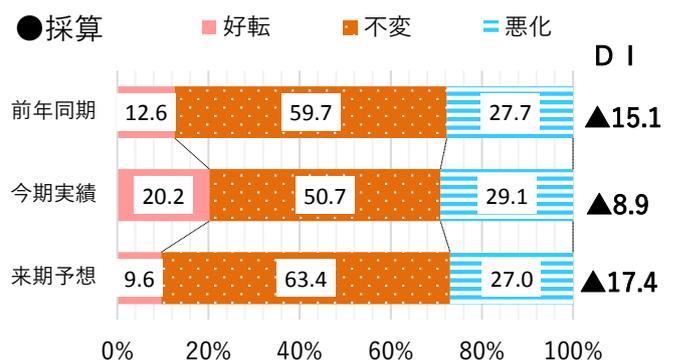
今期の売上高DIは1.1で、前年同期と比べ13.5ポイント上昇しました。

来期のDIは▲22.8で、今期と比べ大幅に減少すると予想しています。

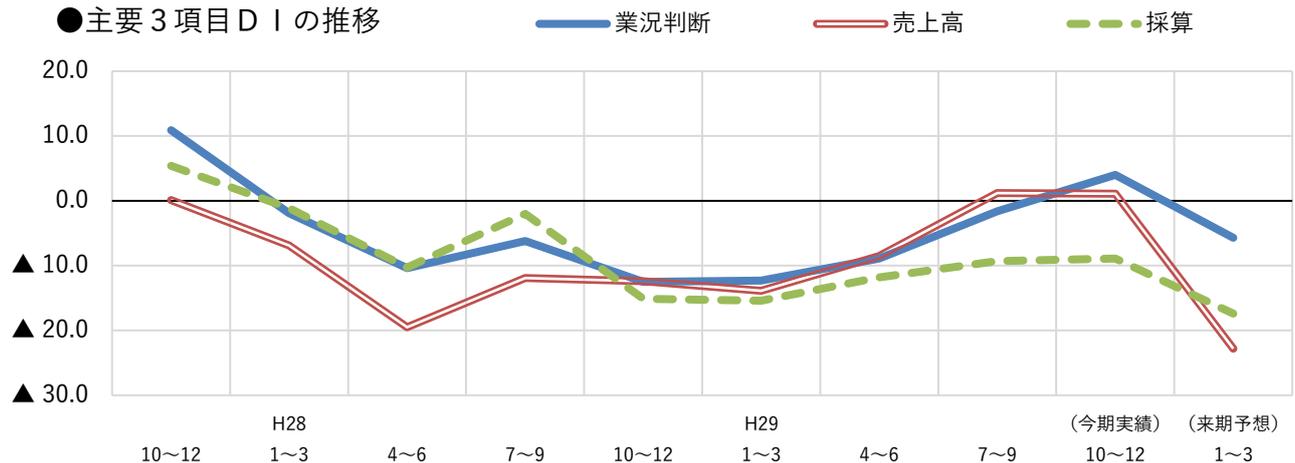


今期の採算DIは▲8.9で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期のDIは▲17.4で、今期と比べ悪化すると予想しています。



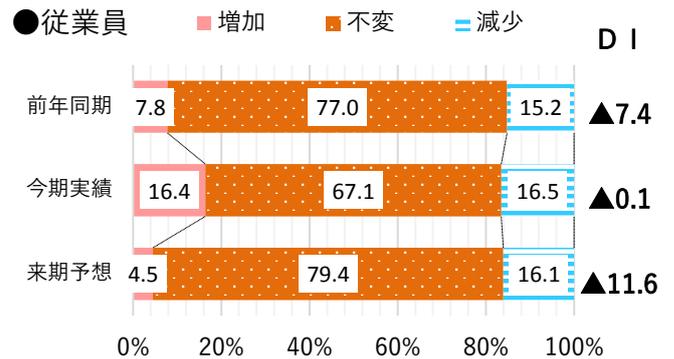
●主要3項目DIの推移



従業員

今期の従業員DIは▲0.1で、前年同期と比べ7.3ポイント上昇しました。

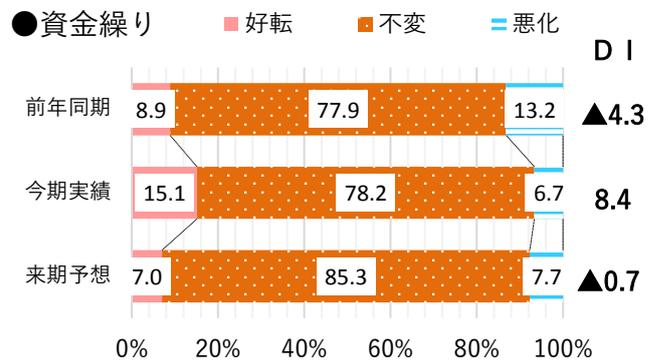
来期のDIは▲11.6で、今期と比べ人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

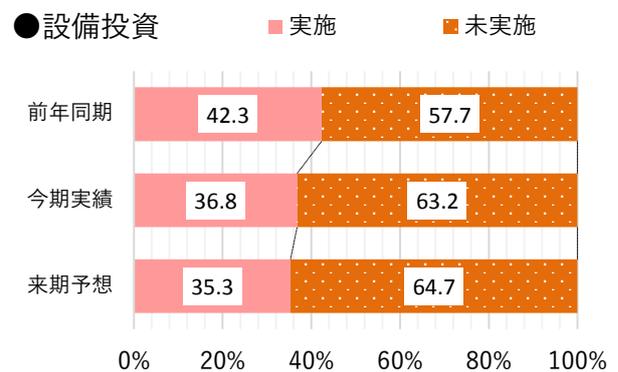
今期の資金繰りDIは8.4で、前年同期と比べ12.7ポイント上昇しました。

来期のDIは▲0.7で、今期と比べ厳しさが増すと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった136企業のうち36.8%にあたる50社が実施、前年同期と比べ5.5%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「付帯施設」の順です。

来期は、35.3%（48社）が設備投資を計画していると回答しています。

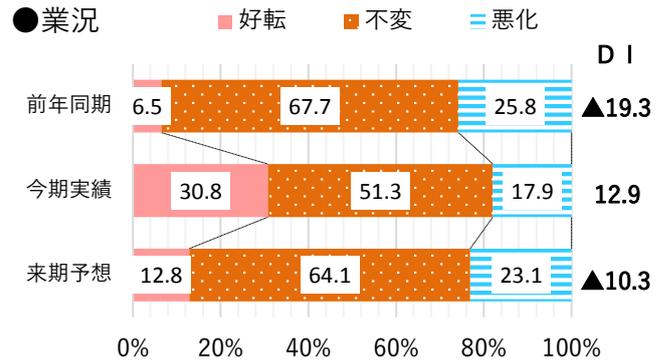


製造業

業況、売上、採算

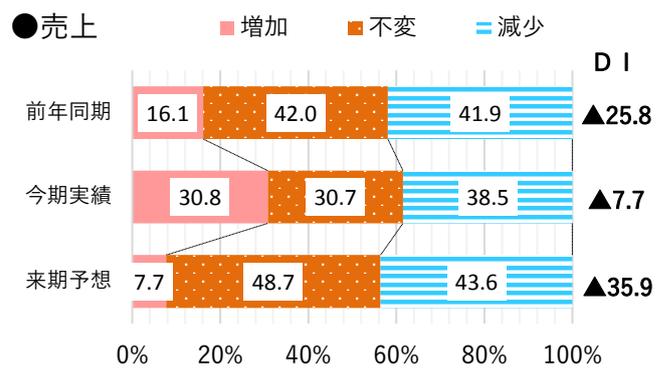
今期(H29.10~12)の業況判断DIは12.9で、前年同期(H28.10~12)と比べ32.2ポイント上昇しました。

来期(H30.1~3)は▲10.3で、今期と比べ大幅に悪化すると予想しています。



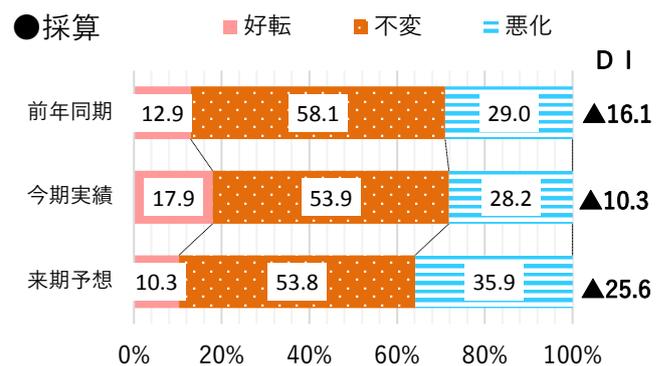
今期の売上DIは▲7.7で、前年同期と比べ18.1ポイント上昇しました。

来期は▲35.9で、今期と比べ大幅に悪化すると予想しています。

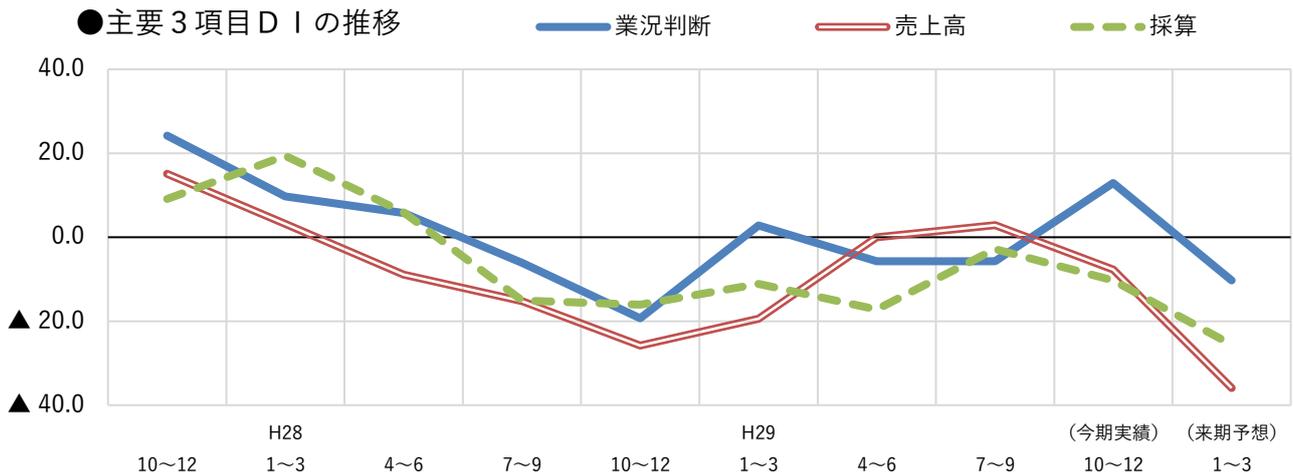


今期の採算DIは▲10.3で、前年同期と比べ5.8ポイント上昇しました。

来期は▲25.6で、今期と比べ悪化すると予想しています。



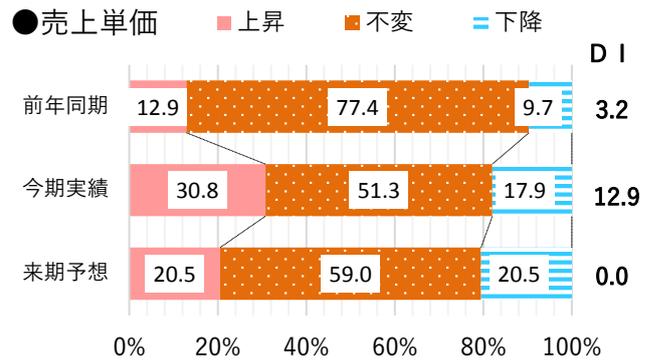
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価

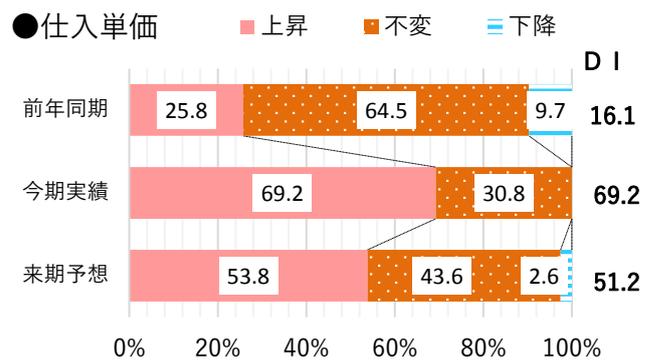
今期の売上単価DIは12.9で、前年同期と比べ9.7ポイント上昇しました。

来期は0.0で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは69.2で、前年同期と比べ53.1ポイント上昇しました。

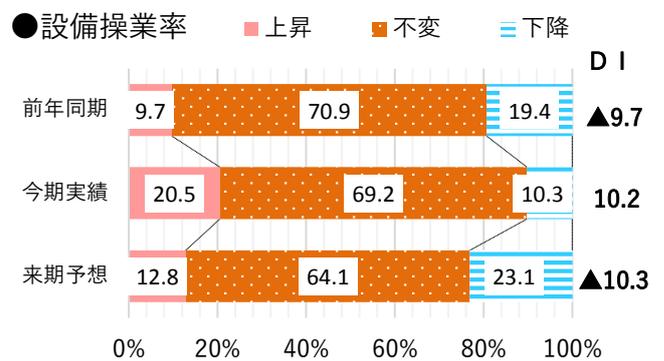
来期は51.2で、今期と比べ上昇感がやや弱まると予想しています。



設備操業率、従業員

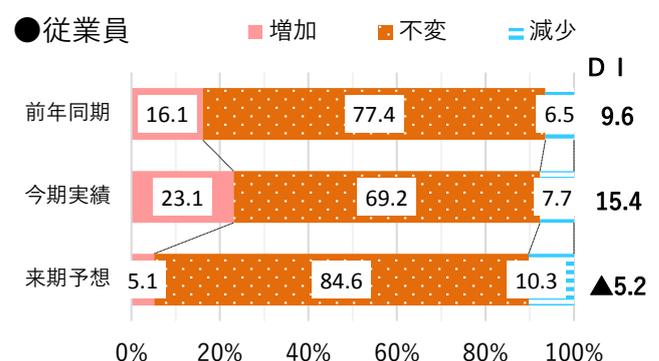
今期の設備操業率DIは10.2で、前年同期と比べ19.9ポイント上昇しました。

来期は▲10.3で、今期と比べ大幅に低下すると予想しています。



今期の従業員DIは15.4で、前年同期と比べ5.8ポイント上昇しました。

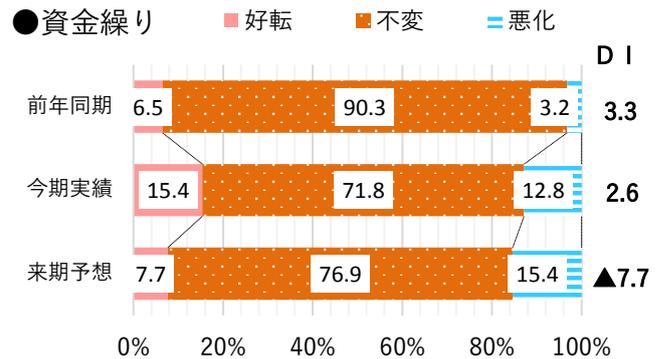
来期は▲5.2で、今期と比べ人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

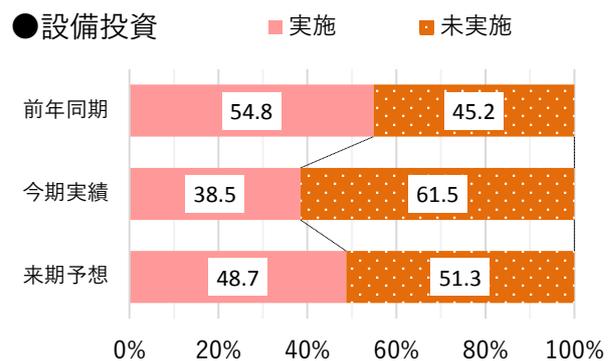
今期の資金繰りDIは2.6で、前年同期と比べ0.7ポイント低下しました。

来期は▲7.7で、今期と比べ厳しさが増すと予想しています。



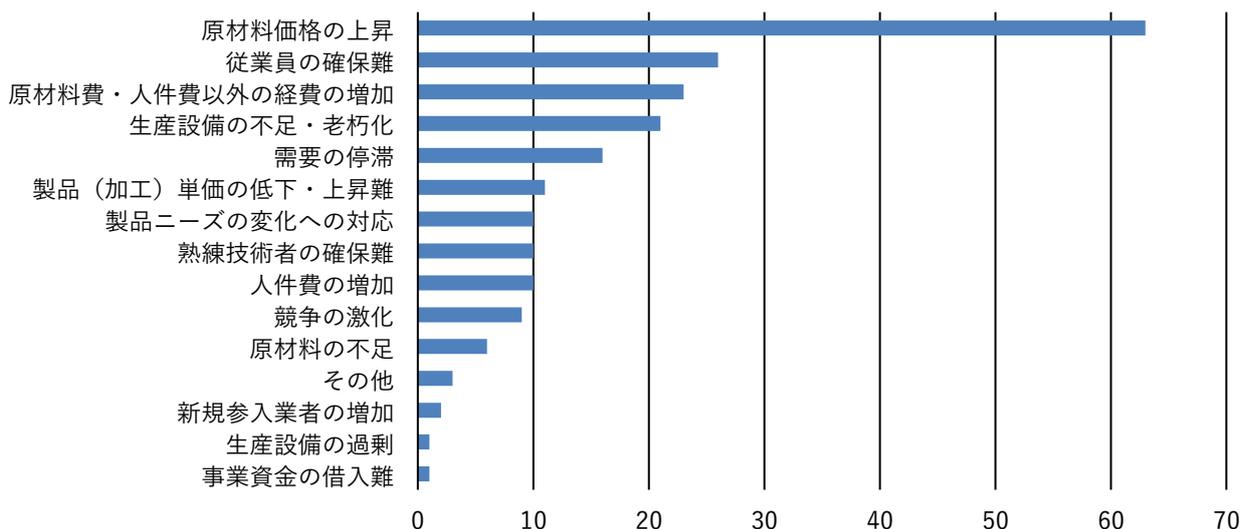
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ16.3%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は48.7%で、今期と比べ増加すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 大手取引先からの注文が増えている。(食料品)
- 近年は増収増益である。スケソウダラが獲れなくなった20年以上前から、原料は主にアメリカへ計画的にシフトしていたことから、他社のような影響はない。(食料品)
- 数の子製品の需要が減少し、業績が悪化した。(食料品)
- 原料(水産)価格の上昇を受けて製品価格を値上げした結果、売上額が減少した。特に、海外向けの売上が大きく落ち込んだ。(食料品)
- 鮭、イカをはじめとした原材料が品薄となっている。原油価格も上昇し、漁船は燃料費がかかるため遠くまで漁に出ない。漁獲量が増えない限り、現在の状況が続くと見られる。(食料品)
- 原材料の仕入値が高く、普段の倍で仕入れるときもある。(食料品)
- 羊肉が年々値上がり傾向にある。売上も価格転嫁で値上げした影響で減少した。(食料品)
- 国内外の観光客の来店が想定以上に多く、業況は好調に推移した。売場でのキャッシュレス決済(クレジットカード・電子マネー)機能を強化したところ、消費者の決済需要を取り込めた。(飲料品)
- 暗きょ用樹脂管(排水パイプ)の受注が好調だった。(プラスチック製品)
- 鮭、サンマ、イカ、ホタテの不漁と価格上昇が影響し、当社製品(包装資材)の売上が減少した。(プラスチック製品)
- 上期で遅れていた物件が出始め、年内は忙しい状況が続き、収益も改善している。(金属製品)
- 建設業の好調(主に札幌・ニセコ)により増収増益である。(金属製品)
- 平成28年度に発生した台風災害復旧工事からの資材受注があったが、別案件で納期が遅れ、売上が思うように伸びなかった。(金属製品)
- 原材料の値上がりにより採算が悪化した。(紙製品)

[来期の業況について]

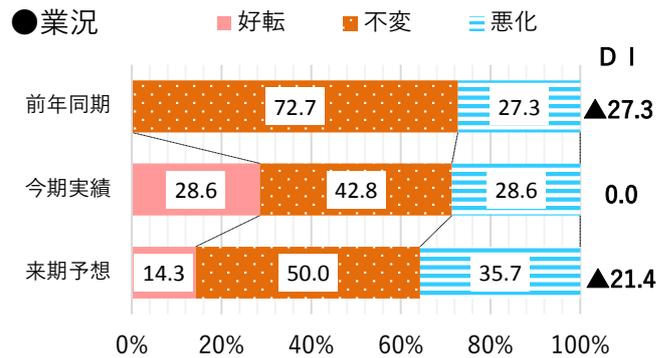
- 原材料価格がやや低下傾向にあるため、採算の回復が期待できる。(食料品)
- 新商品の売上見込みが大きく、設備投資が必要となる可能性がある。(食料品)
- 水産加工品の落ち込みをカバーするため、自社で果実の加工品を製造し、年明けから販売を開始する。原料は後志管内の農家からキズ物を仕入れる。(食料品)
- 年末商材の商戦が終了し、閑散期となる。(食料品)
- 原油価格の上昇と円安の進行により、原材料と包装資材の値上げが予想される。価格転嫁が困難な状況のため、業況への不安感を払拭できない。(食料品)
- イカをはじめとした原材料の不足、価格高騰から回復する見込みが立たない。(食料品)
- 中国が羊肉を買い付けており、予断を許さない状況である。商材は高値安定で推移する見込み。(食料品)
- 季節要因も加味しているが、徐々に来店客数が減少すると予想している。人手不足が深刻化する中、従業員のやり繰り、人件費の増加が不安材料になっている。今後の経営方針を決めておかないと、人手不足による廃業、倒産は遠い話ではない。(飲料品)
- 安定した受注が続くが、好調だった10~12月と比較すると減少する見込み。新たな物件の獲得に注力したい。(金属製品)
- 一般土木資材などの受注が減少する見込み。(金属製品)
- 神戸製鋼の不正問題は業界に与える影響が大きい。鋼材の材質を証明するミルシートの正当性が問われることになった。(金属製品)
- 受注状況は順調で、来年ピークを迎えると予想している。(金属製品)
- 1~3月は不需求期のため、今期と比較すると業況が悪化する。(紙製品)
- 大手企業向けのOEM供給が好調で、半年先までの売上を確保できている。(家具建具)
- 組織体制の見直しにより、生産性の向上が期待できる。(ゴム製品)

卸 売 業

業況、売上、採算

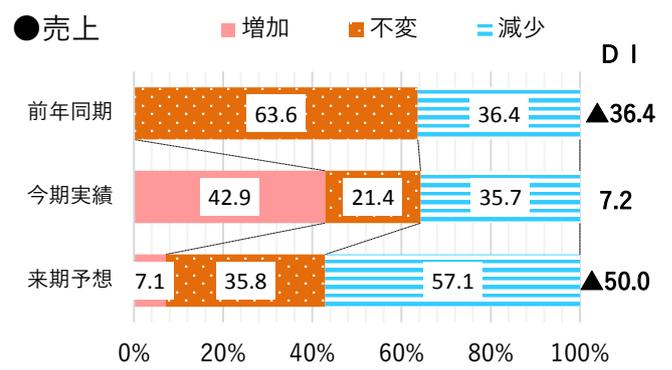
今期(H29.10~12)の業況判断DIは0.0で、前年同期(H28.10~12)と比べ27.3ポイント上昇しました。

来期(H30.1~3)は▲21.4で、今期と比べ大幅に悪化すると予想しています。



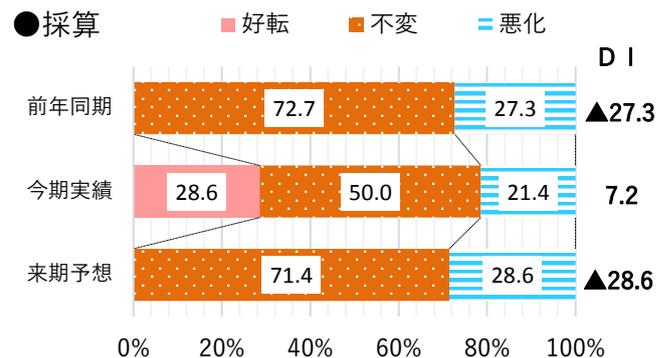
今期の売上DIは7.2で、前年同期と比べ43.6ポイント上昇しました。

来期は▲50.0で、今期と比べ大幅に減少すると予想しています。

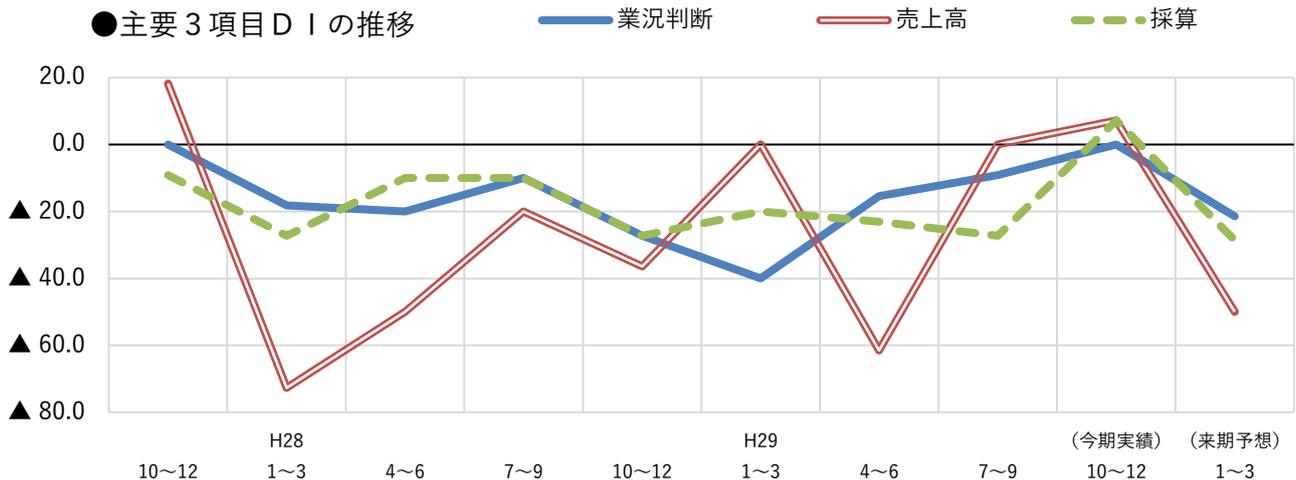


今期の採算DIは7.2で、前年同期と比べ34.5ポイント上昇しました。

来期は▲28.6で、今期と比べ大幅に悪化すると予想しています。



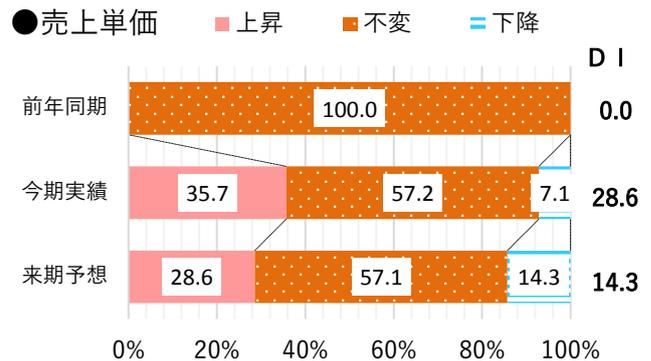
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

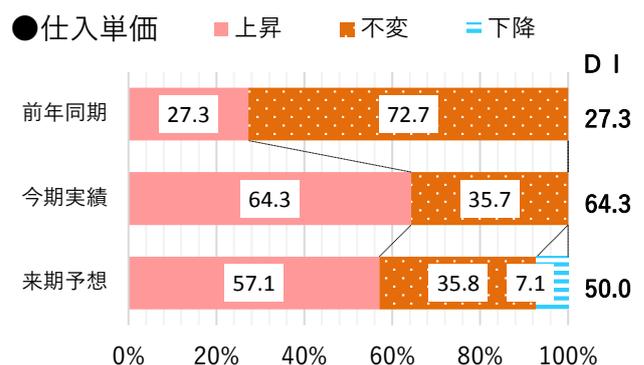
今期の売上単価DIは28.6で、前年同期と比べ28.6ポイント上昇しました。

来期は14.3で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは64.3で、前年同期と比べ37.0ポイント上昇しました。

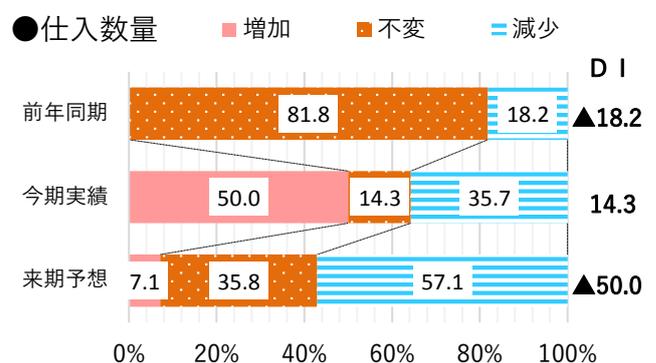
来期は50.0で、今期と比べ上昇感がやや弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

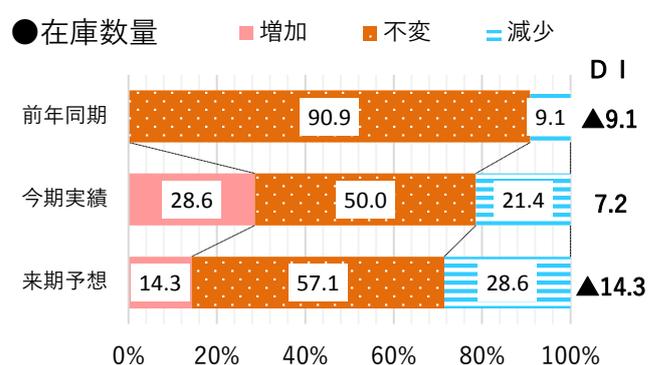
今期の仕入数量DIは14.3で、前年同期と比べ32.5ポイント上昇しました。

来期は▲50.0で、今期と比べ大幅に減少すると予想しています。



今期の在庫数量DIは7.2で、前年同期と比べ16.3ポイント上昇しました。

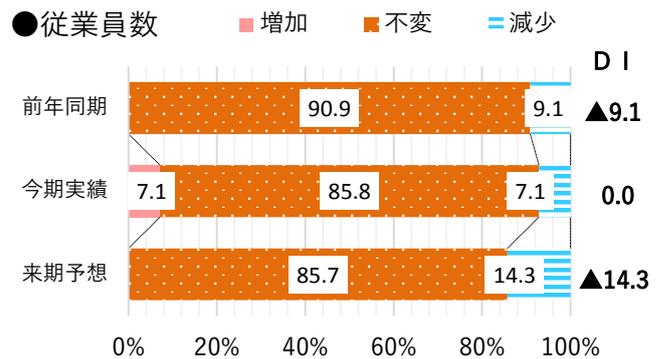
来期は▲14.3で、今期と比べ減少すると予想しています。



従業員

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

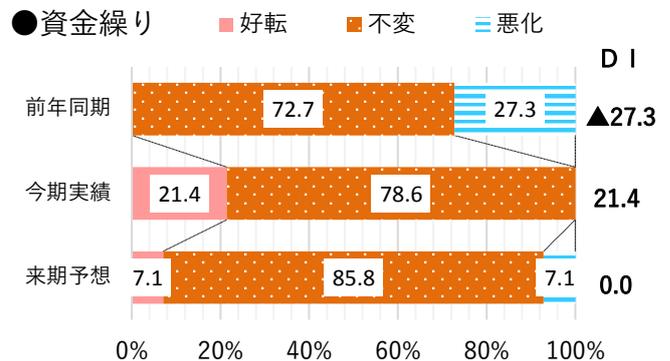
来期は▲14.3で、今期と比べ人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

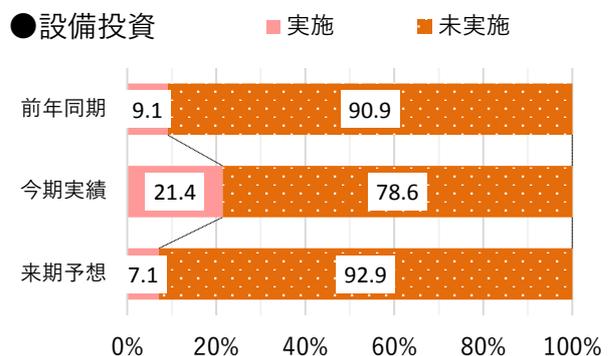
今期の資金繰りDIは21.4で、前年同期と比べ48.7ポイント上昇しました。

来期は0.0で、今期と比べ厳しさが増すと予想しています。



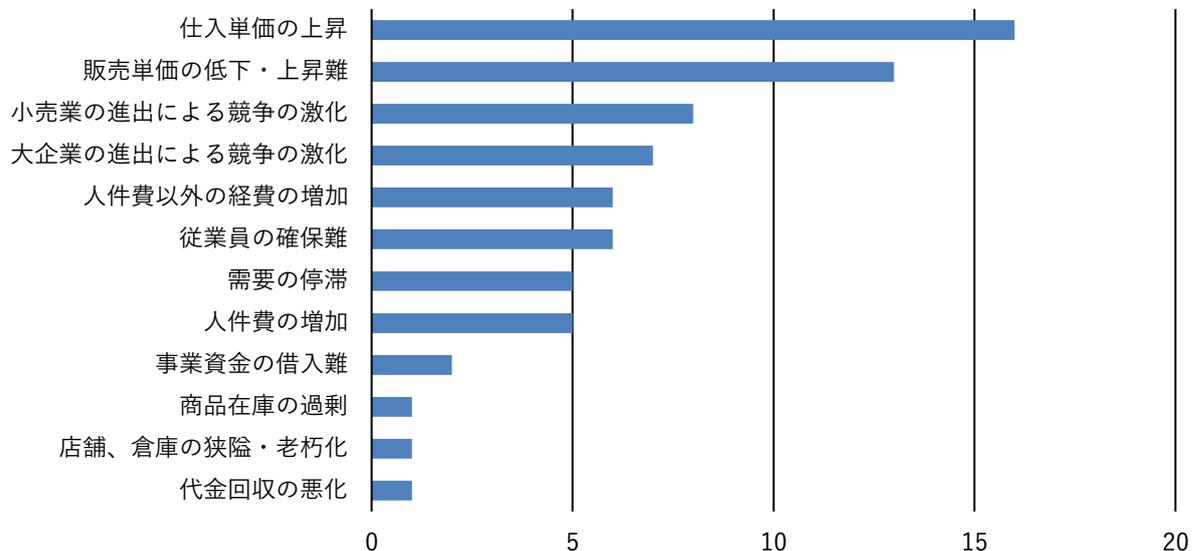
設備投資を実施した企業の割合は21.4%で、前年同期と比べ12.3%増加しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「土地」、「倉庫」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は7.1%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「販売単価の低下・難」、3位が「小売業の進出による競争の激化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 競合他社の撤退・倒産により当社の仕事量は増えたが、業界としては嬉しい話ではない。
(自動車部品)
- 建設需要の増加により注文数が増加した。(機械器具)
- 消費の低迷、取引先の販売不振が影響し、売上が減少した。(飲食料品)
- 売りたいくても物が入ってこない。みかんやギフトも厳しい状況である。メーカーからは前年実績比で今年仕入れできる数量が決めるので、販売先も増やすことができない。注文残のみが残っていく。(飲食料品)

[来期の業況について]

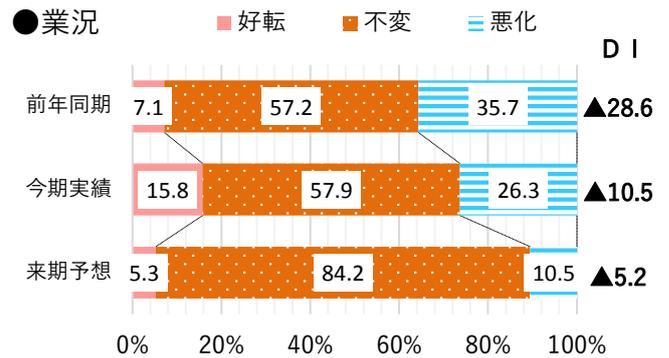
- 除雪車両の消耗品、板金部品の需要は降雪量に左右される。今年は積雪が早く期待している。
(自動車部品)
- ホテルなど観光業界からの受注が伸びる見込み。(機械器具)
- 競合他社が小樽から撤退したことで当社の取引が増えており、売上増加を見込む。(飲食料品)
- イクラは原料不足で加工賃も30%~40%アップする見込みで、今季はいくらで仕入れられるか不明である。季節商品は見切りが早くリスクがあるので、新たな取扱いについては慎重にならざるを得ない。(飲食料品)

小 売 業

業況、売上、採算

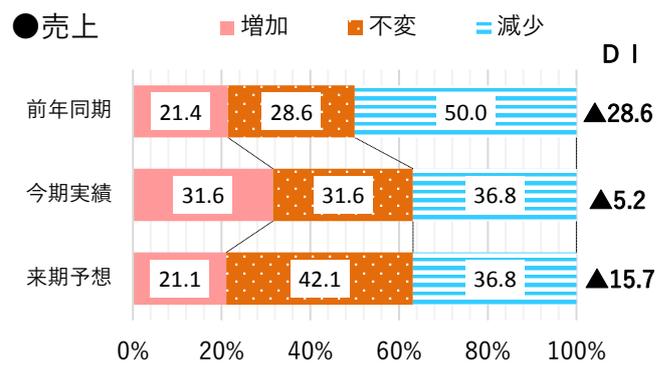
今期(H29.10~12)の業況判断DIは▲10.5で、前年同期(H28.10~12)と比べ18.1ポイント上昇しました。

来期(H30.1~3)は▲5.2で、今期と比べ改善すると予想しています。



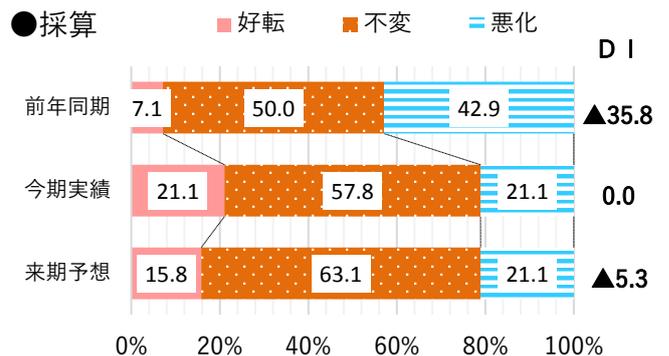
今期の売上高DIは▲5.2で、前年同期と比べ23.4ポイント上昇しました。

来期は▲15.7で、今期と比べ悪化すると予想しています。

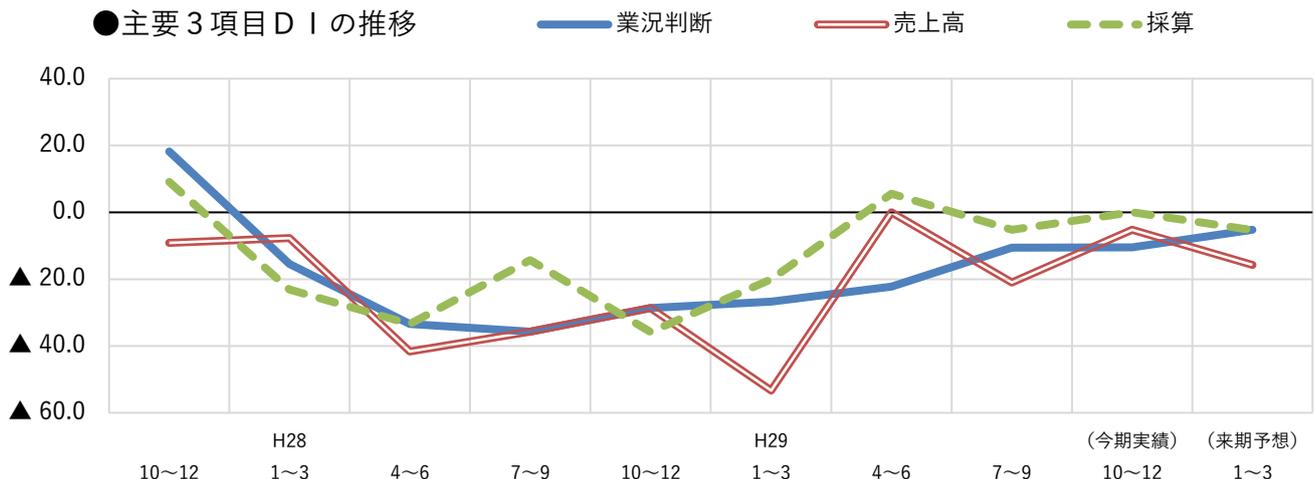


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ35.8ポイント上昇しました。

来期は▲5.3で、今期と比べ悪化すると予想しています。



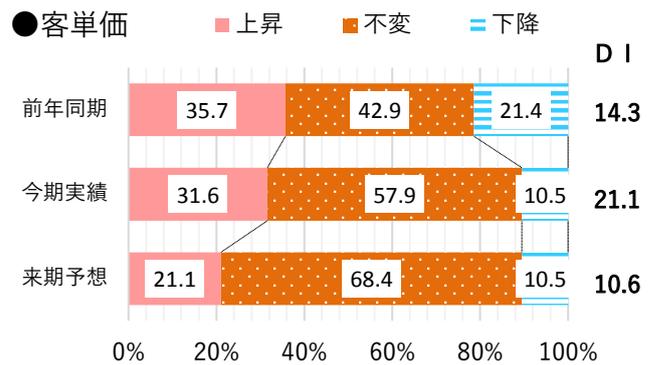
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

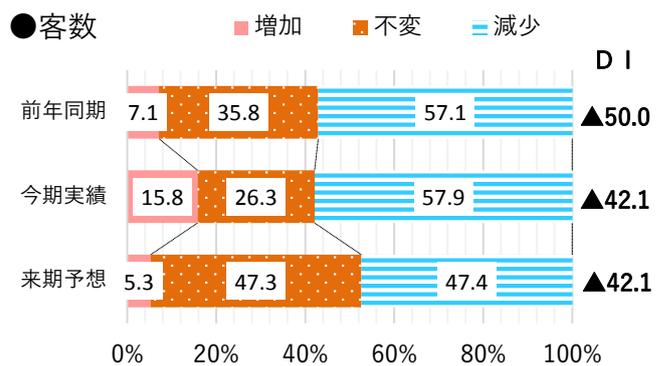
今期の客単価DIは21.1で、前年同期と比べ6.8ポイント上昇しました。

来期は10.6で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲42.1で、前年同期と比べ7.9ポイント上昇しました。

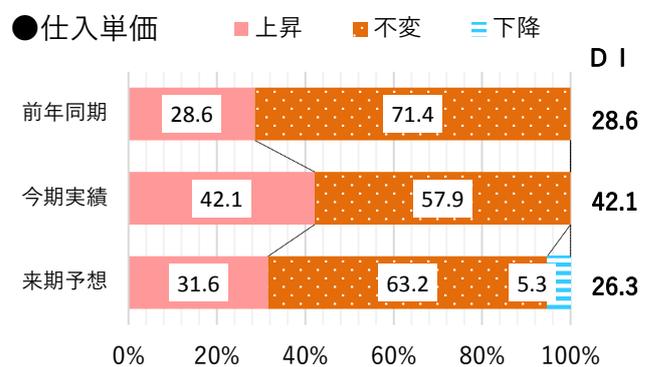
来期は▲42.1で、横ばいであると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

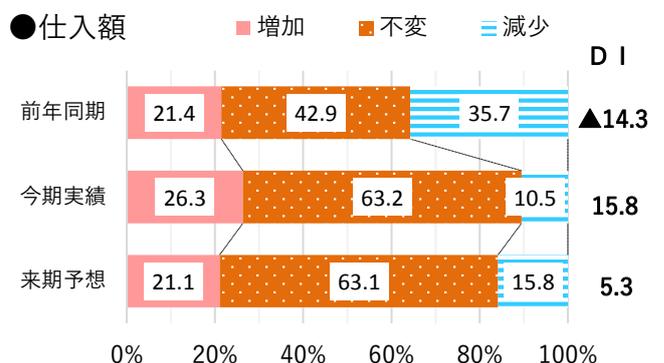
今期の仕入単価DIは42.1で、前年同期と比べ13.5ポイント上昇しました。

来期は26.3で、今期と比べ低下すると予想しています。



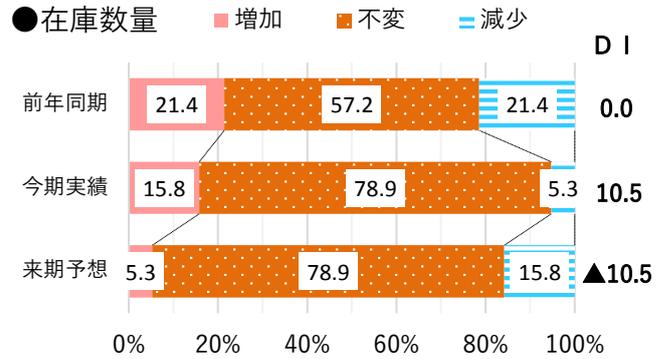
今期の仕入額DIは15.8で、前年同期と比べ30.1ポイント上昇しました。

来期は5.3で、今期と比べ減少すると予想しています。



今期の在庫数量DIは10.5で、前年同期と比べ10.5ポイント上昇しました。

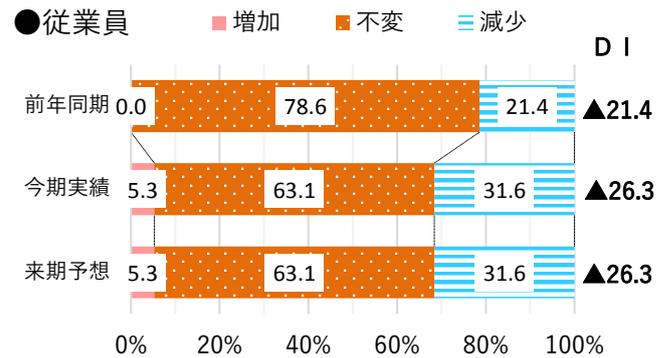
来期は▲10.5で、今期と比べ大幅に減少すると予想しています。



従業員

今期の従業員DIは▲26.3で、前年同期と比べ4.9ポイント低下しました。

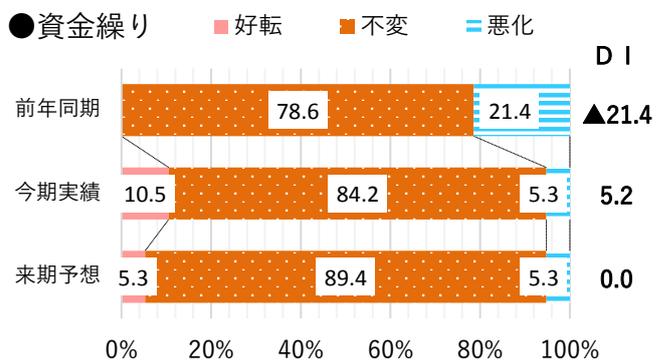
来期は▲26.3で、人手不足感は横ばいであると予想しています。



資金繰り、設備投資

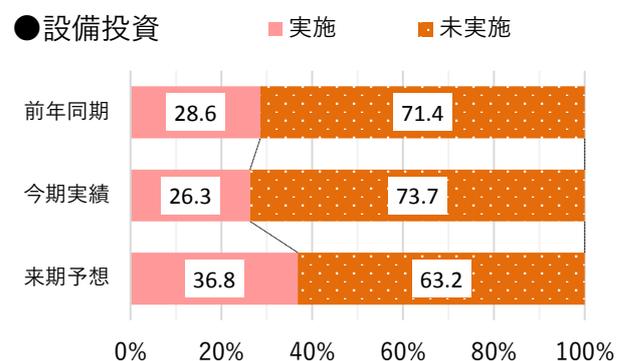
今期の資金繰りDIは5.2で、前年同期と比べ26.6ポイント上昇しました。

来期は0.0で、厳しさが増すと予想しています。



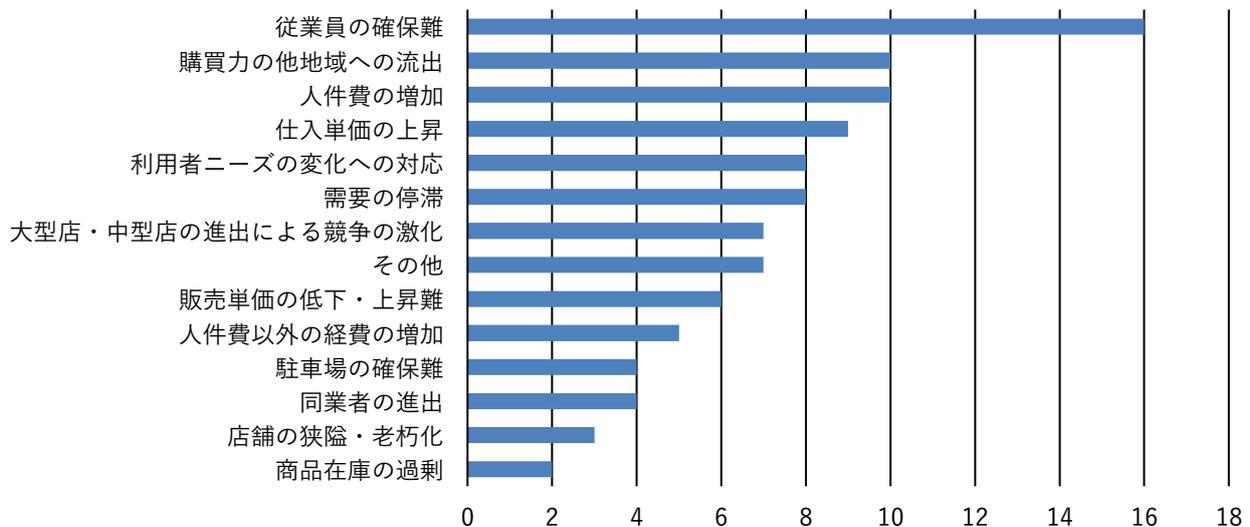
設備投資を実施した企業の割合は26.3%で、前年同期と比べ2.3%減少しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」、「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は36.8%で、今期と比べ増加すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「購買力の他地域への流出」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 中古自動車の買取台数が伸長し、販売台数が増加した。（中古自動車小売）
- 北海道物産展での売上が好調であった。（菓子製造小売）
- 今期に限ったことではないが、商店街への客足が遠のき苦戦を強いられている。空き店舗も増え、新規出店が見込めなければ今後の見通しも厳しい。（かばん小売）
- 人口減少と少子化に加え、ネット販売に顧客を奪われている。（スポーツ用品小売）
- 競合店のリニューアルオープンがあり、一時、苦戦していたが今は客足が戻っている。（スーパーマーケット）
- 魚介類（イカ、サケ、サンマ）など季節商品の不足で、鮮魚部門の売上は前年比10%のマイナスとなっている。（総合スーパー）
- 固定客が付いてきており、客数が伸びている。（ホームセンター）
- 札幌の競合店にお客さんを奪われている。（家電量販店）
- 求人募集の広告費用が増大した。（コンビニ）

[来期の業況について]

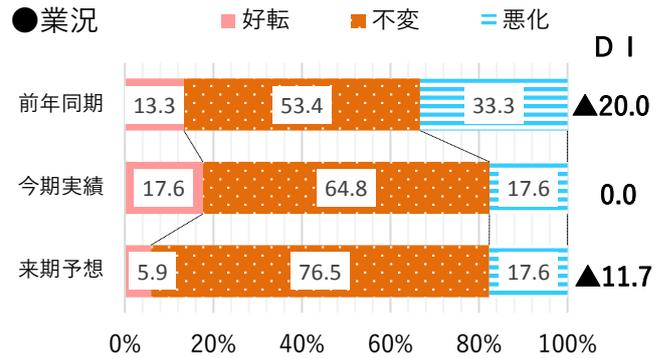
- 受注件数は予想がつかないため不安材料である。（菓子製造小売）
- 観光客が減少する時期であるため、今期と比べ状況は悪化すると予想する。（飲食料品小売）
- 外販、お中元・お歳暮需要を開拓していきたいが、マンパワーが足りない。（飲食料品小売）
- 食料品の販売だけに、季節的な要因での上下はない。イクラは昨年の倍の値段であり、生筋子の売上は下がっている。値段は安くないが、イカは市場に出回っている。（スーパーマーケット）
- 季節商品の取扱いがあるため、プラスマイナスゼロではないか。（ホームセンター）
- 新入学、就職、引越しなどに伴う、春の新生活での需要に期待できる。（家電量販店）
- 人手不足が深刻化している。（コンビニ）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

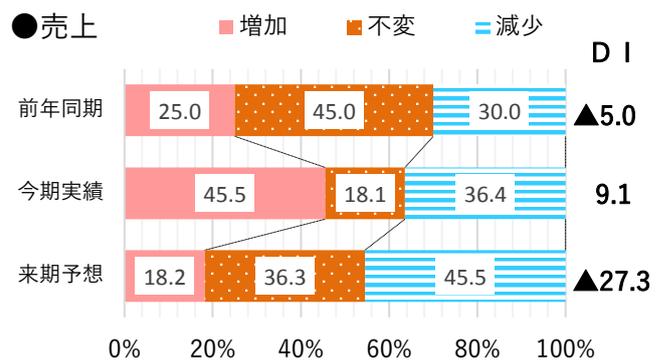
今期（H29.10～12）の業況判断DIは0.0で、前年同期（H28.10～12）と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期（H30.1～3）は▲11.7で、今期と比べ悪化すると予想しています。



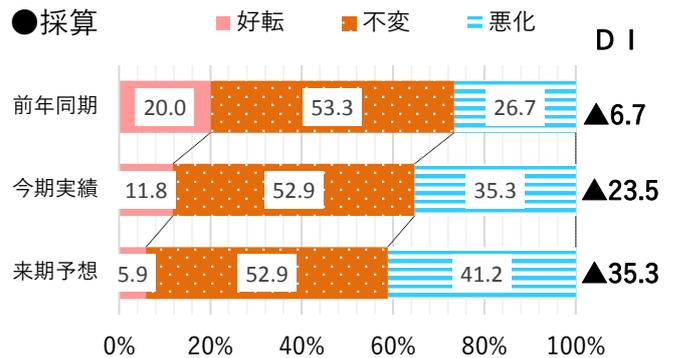
今期の売上高DIは9.1で、前年同期と比べ14.1ポイント上昇しました。

来期は▲27.3で、今期と比べ大幅に悪化すると予想しています。

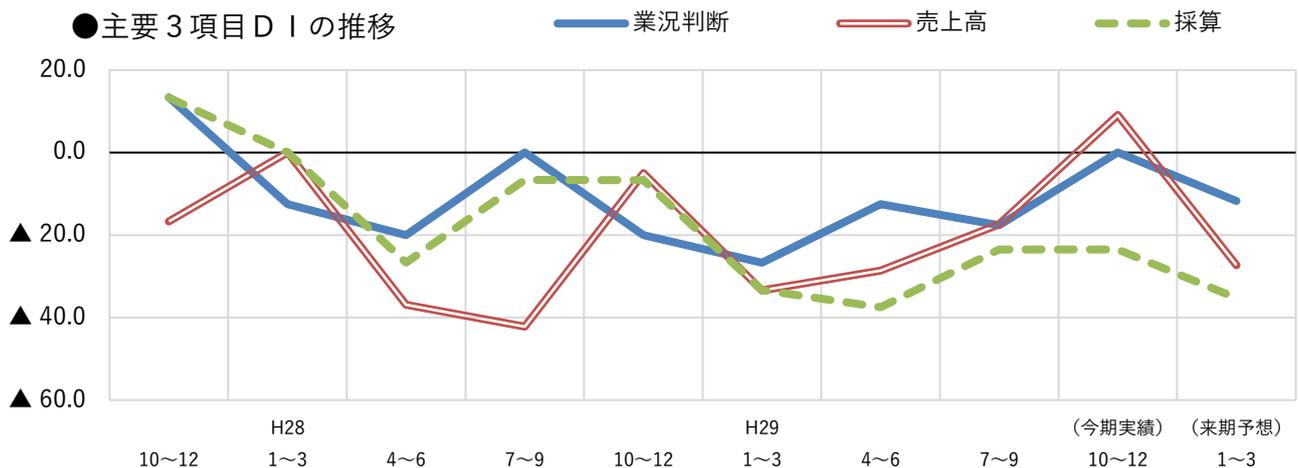


今期の採算DIは▲23.5で、前年同期と比べ16.8ポイント低下しました。

来期は▲35.3で、今期と比べ悪化すると予想しています。



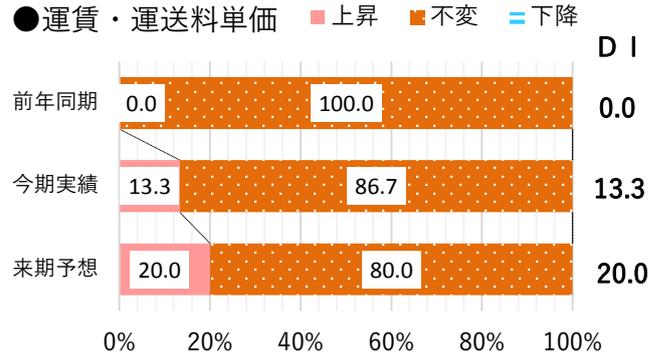
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

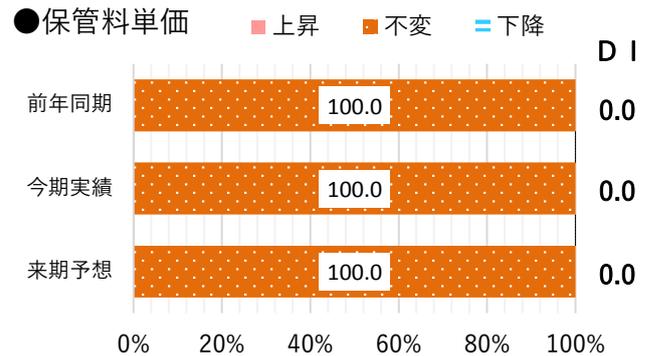
今期の運賃・運送料単価DIは13.3で、前年同期と比べ13.3ポイント上昇しました。

来期は20.0で、今期と比べ上昇すると予想しています。



今期の保管料単価は0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

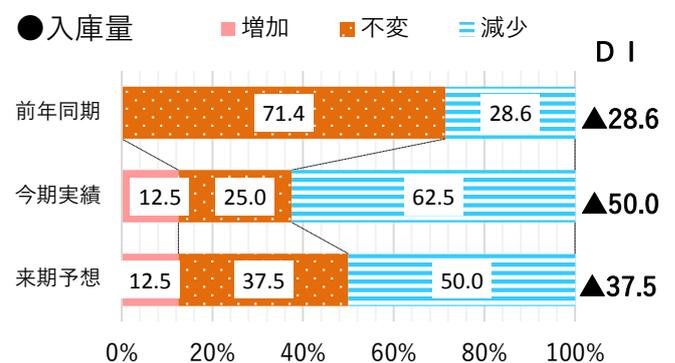
来期は0.0で、横ばいであると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

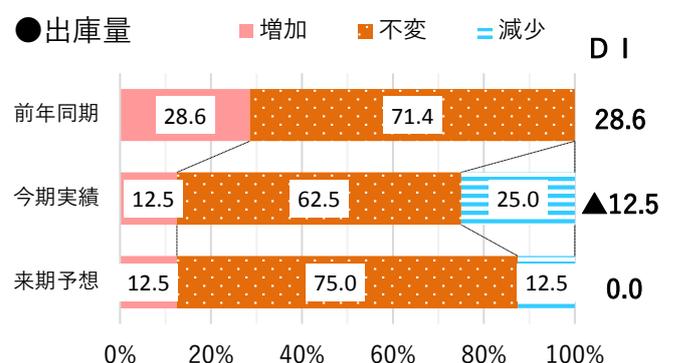
今期の入庫量DIは▲50.0で、前年同期と比べ21.4ポイント低下しました。

来期は▲37.5で、今期と比べ回復すると予想しています。



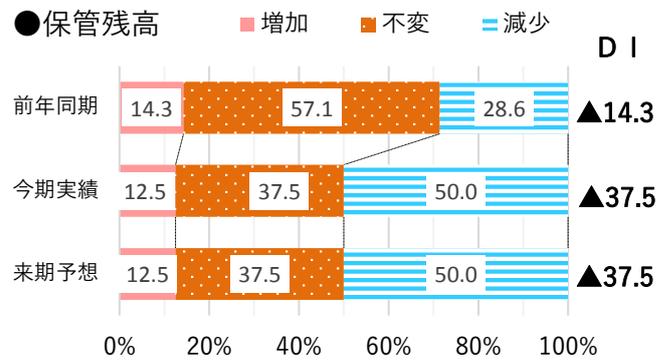
今期の出庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ41.1ポイント低下しました。

来期は0.0で、今期と比べ増加すると予想しています。



今期の保管残高DIは▲37.5で、前年同期と比べ23.2ポイント低下しました。

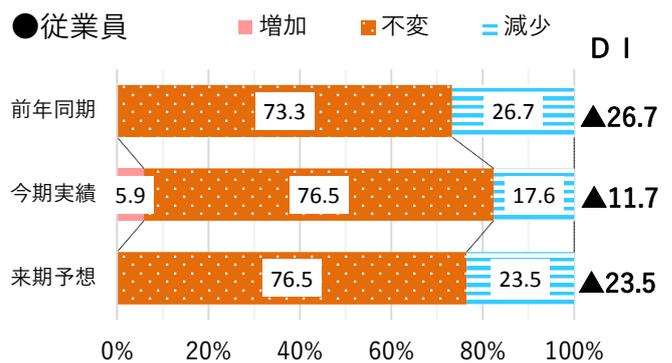
来期は▲37.5で、横ばいであると予想しています。



従業員

今期の従業員DIは▲11.7で、前年同期と比べ15.0ポイント増加しました。

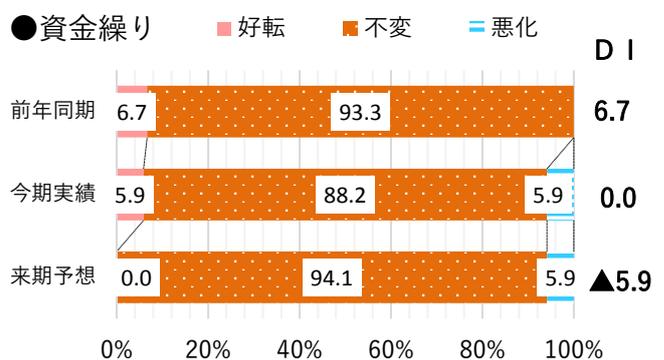
来期は▲23.5で、今期と比べ人手不足感が増すと予想しています。



資金繰り、設備投資

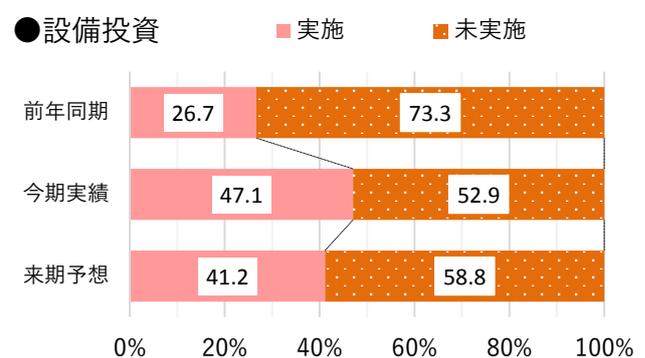
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ6.7ポイント減少しました。

来期は▲5.9で、今期と比べ厳しさが増すと予想しています。



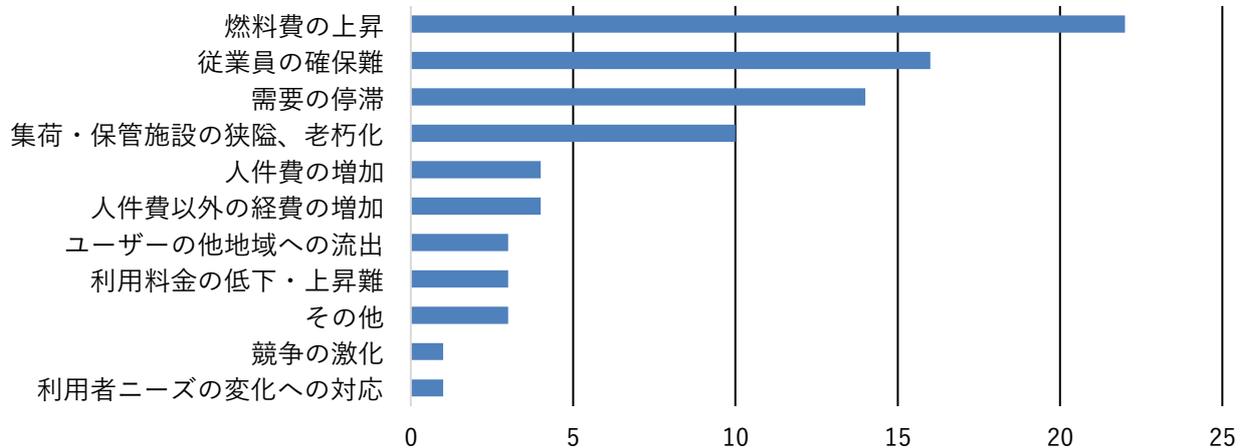
設備投資を実施した企業の割合は47.1%で、前年同期と比べ20.4%増加しました。投資内容は、1位が「集荷・保管施設」、「輸送機材」（同位）、続いて「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は41.2%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 各種公共工事の本格稼働に伴う運送量の増加により、業況が好転した。(道路貨物運送)
- 北海道新幹線や高速道路の建設工事が好調で伸びている。(道路貨物運送)
- 売上は増えたが、燃料高騰などの影響で経費が増え、利益はそれほど増加しなかった。(道路貨物運送)
- ドライバー不足から、以前よりは運賃交渉がしやすくなっている。(道路貨物運送)
- 燃料は上昇傾向のほか、タイヤも値上げとなり経費が増加しているが、なかなか価格に転嫁できない。(道路貨物運送)
- 全国的に人参が豊作だったことから需給調整が実施され、道外に移出できなくなった分の影響が若干あった。昨年は野菜全般が悪かったため、2年連続で影響を受けている。(道路貨物運送)
- 小樽港への入港船舶の減少に伴って取扱貨物量が減り、厳しい状況である。荷物の運搬、保管事業を行っているので、船が入ってこなければ仕事がない。特に水産物の取扱いが減っているが、漁獲量そのものの減少に加え、ロシアの規制強化や水産物が中国や韓国に流れていることが要因ではないか。(港湾運送業)
- MA米はこれまで政府が買い上げていたが、民間に移行したことで、リスク分散から需要地に近いところに備蓄するようになり、小樽に入るMA米の量が激減した。(道路貨物運送、倉庫)
 - ※日本はコメの輸入に数百%の関税をかけて国産米生産を保護する代わりに、最低限の輸入機会(ミニマム・アクセス)を提供することになっている。その枠として輸入しているのがMA米。
- 貨物減少により、倉庫及び輸送ともに売上減少となった。(道路貨物運送・倉庫)
- 冷蔵事業はロシアの水産物(サケ、エビ)が好調である。(倉庫)
- 新船効果で業績好調。(水運)
- 利用回数は増加したが、ガソリンの高騰により利益が減少した。(タクシー)

[来期の業況について]

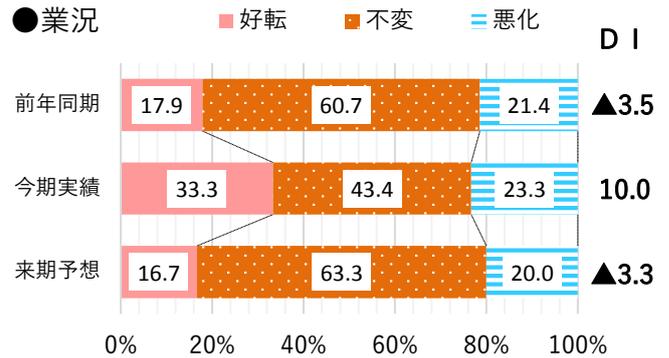
- 高速道路建設工事の土砂運搬、除雪作業があり、庸車が増える見込み。(道路貨物運送)
- 協力会社を集めるのに苦労しており、トラックはあるがドライバーがいない。(道路貨物運送)
- 旅客船がドック(定期検査)入りするため減便運航となる。(水運)
- 冬期間は在庫量が減少する。(倉庫)

観光・サービス業

業況、売上、採算

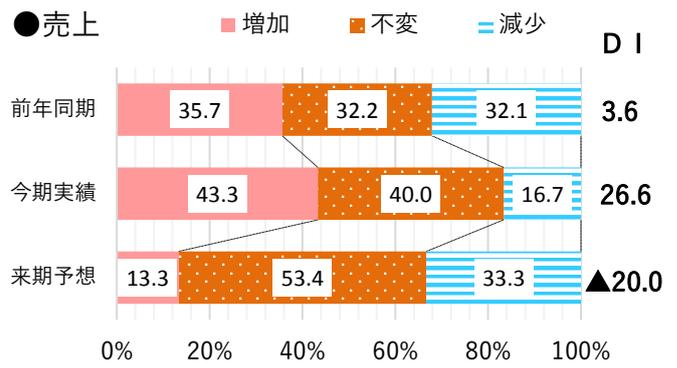
今期（H29.10～12）の業況判断DIは10.0で、前年同期（H28.10～12）と比べ13.5ポイント上昇しました。

来期（H30.1～3）は▲3.3で、今期と比べ悪化すると予想しています。



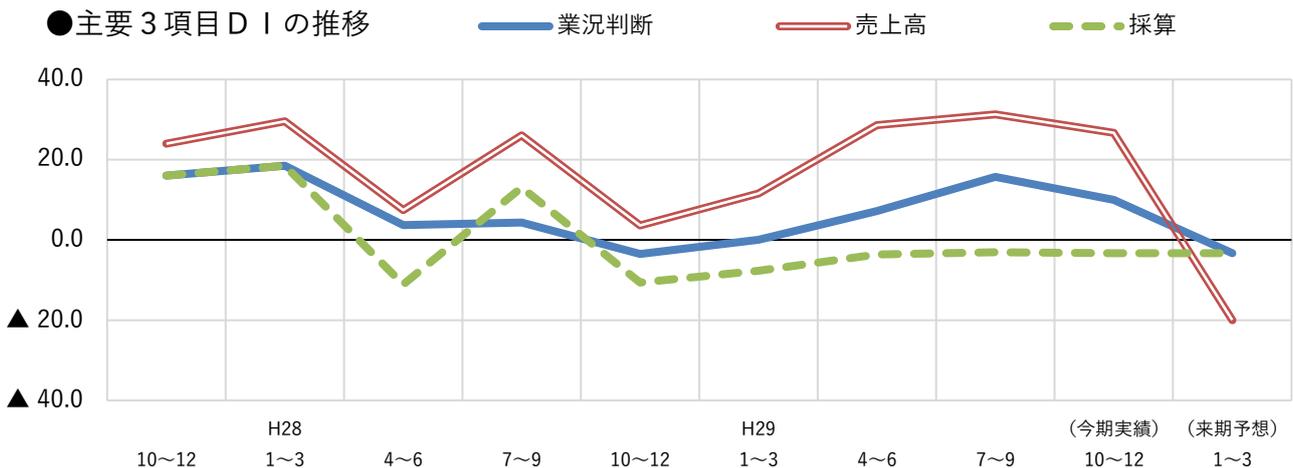
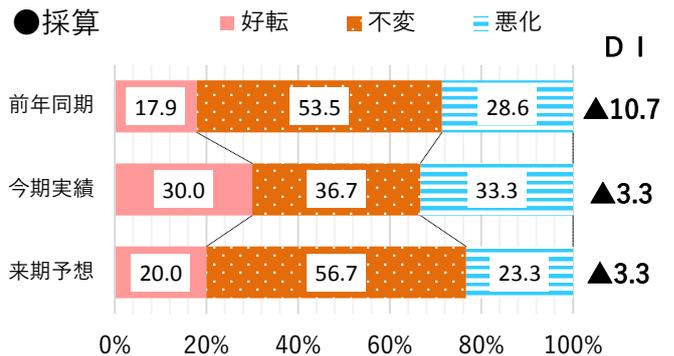
今期の売上高DIは26.6で、前年同期と比べ23.0ポイント上昇しました。

来期は▲20.0で、今期と比べ悪化すると予想しています。



今期の採算DIは▲3.3で、前年同期と比べ7.4ポイント上昇しました。

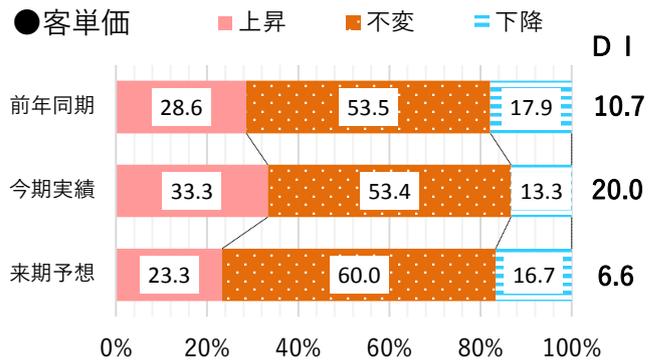
来期は▲3.3で、横ばいを予想しています。



客単価、利用客数

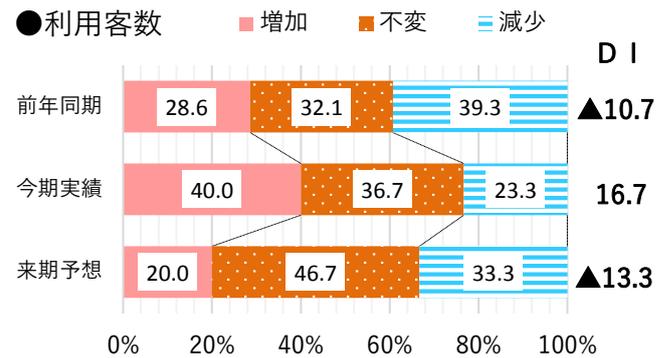
今期の客単価DIは20.0で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

来期は6.6で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の利用客数DIは16.7で、前年同期と比べ27.4ポイント上昇しました。

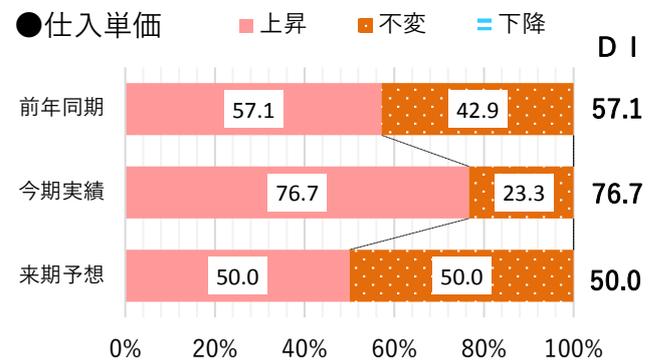
来期は▲13.3で、今期と比べ大幅に低下すると予想しています。



仕入単価、従業員

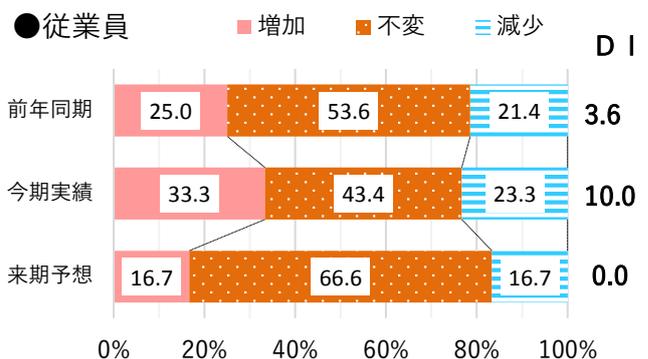
今期の仕入単価DIは76.7で、前年同期と比べ19.6ポイント上昇しました。

来期は50.0で、今期と比べ仕入単価の上昇感は弱まると予想しています。



今期の従業員数DIは10.0で、前年同期と比べ6.4ポイント上昇しました。

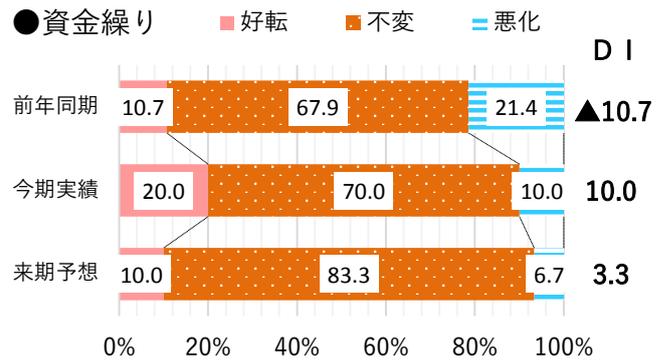
来期は0.0で、今期と比べ人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

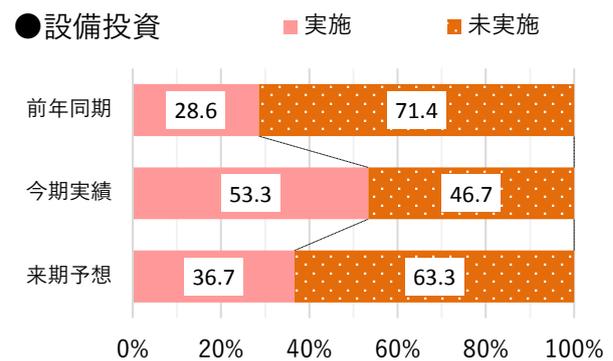
今期の資金繰りDIは10.0で、前年同期と比べ20.7ポイント上昇しました。

来期は3.3で、今期と比べ厳しさが増すと予想しています。



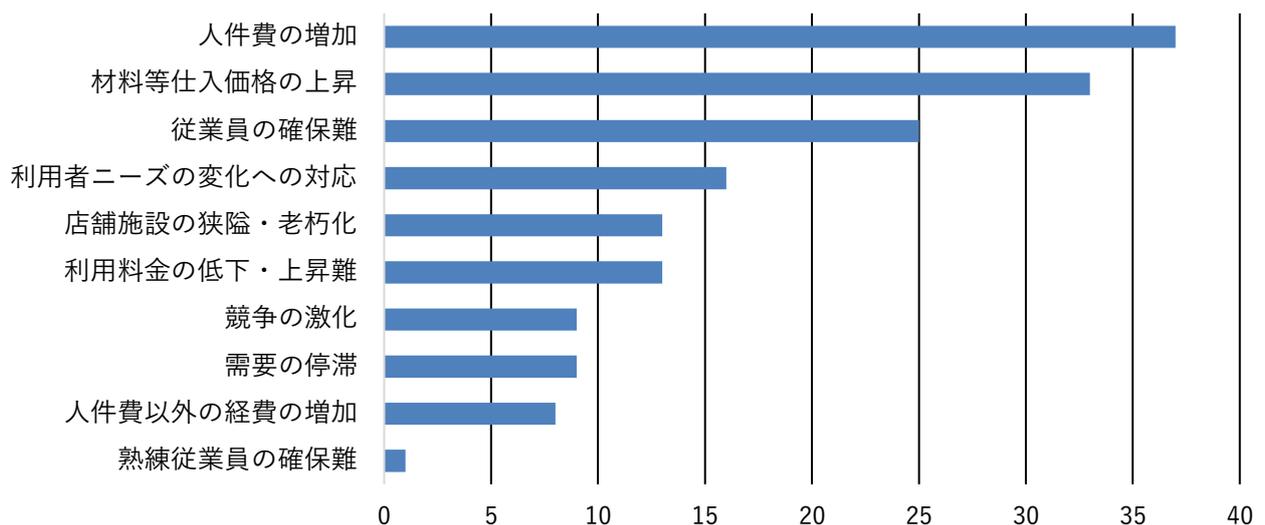
設備投資を実施した企業の割合は53.3%で、前年同期と比べ24.7%増加しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「建物」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は36.7%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 室料単価が見込みよりも上がらなかった。仕入単価も総じて上昇中であり、販売戦略を練り直す必要がある。(ホテル)
- 人手不足により、人件費が増加した。(ホテル)
- 11月は当初の予想より売上を確保できず苦戦、12月中旬まで売上が伸び悩んだ。(ホテル)
- 取引業者からの情報を活かしながら、食材の仕入れ状況を見込んだメニューを組んでいるので、概ね対応できている。(ホテル)
- SNS等により外国語が通じるホテルとして認知度が高まっている。インバウンドは全体の3~4割で、冬期は8割以上になる。ネット予約の個人客は単価が高い。(ホテル)
- 11月後半からの降雪により、景気が失速したと感じる。(土産品)
- 建物の老朽化、送料の値上げ、最低賃金の上昇が負担となっている。(土産品)
- テレビ取材による放送の影響が、売上増加に繋がっている。(土産品)
- 親会社が独自の仕入れルートを持っているので、食材は確保できている。ただし、仕入価格は上昇している。(飲食店)
- 食材の値上がり激しく価格に転嫁できない。ホタテは小樽産がなく価格は5倍、ホッケ、鮭、イクラは3倍になっている。(飲食店)
- イクラやイカの仕入価格が高騰しており、状況次第でメニューを変えざるを得ない。(飲食店)
- 企業の社員旅行、出張等が増えている。来店客は高齢者が多く、インターネットを使えない方が来る。航空券のみの購入者が全体の7割を占めている。個人客はネット予約が圧倒的に多い。(旅行代理店)
- ホテル側がネット予約の比重を高くしており、部屋を確保できなくなっている。(旅行代理店)

[来期の業況について]

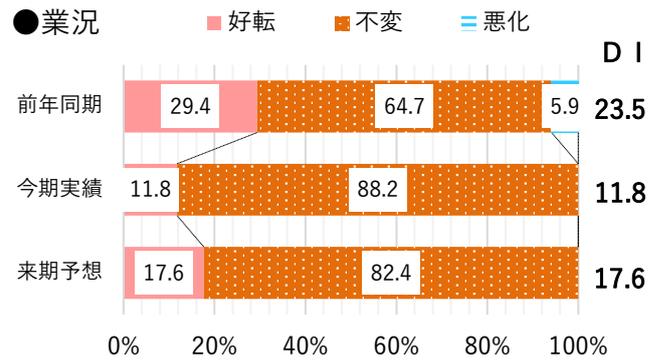
- 2月はインバウンドの利用率が年間で最も高い月なので、取りこぼしがないように注視する。(ホテル)
- 1月が大変厳しく、国内外客を取り込めないと予想する。手を打っているが反応が少ない。外国人客が集中する2月の売上だけでは回復は難しく、苦戦必至の状況になる。(ホテル)
- インバウンド客の入込増が見込める。2月は全宿泊者の半数はインバウンド。(ホテル)
- 今のインバウンドの状況が、中国や北朝鮮情勢などでいつまで続くのかが不安。(旅館)
- 雪あかりの路シーズンの入込次第だが、例年通り売上は減少すると見ている。(土産品)
- 冬の天候(大雪、吹雪)が先行きの不安材料。(土産品)
- 年末年始、雪あかりの路や札幌雪まつり等のイベントがあるので良くなると思うが、3~4月にかけての歓送迎会は年々減少している。(飲食店)
- 外国人の来店が多い。2月くらいまでは、来店客の半分近くは外国人になると思う。(飲食店)
- 冬期間はオフシーズンであるが、最近は道外へのゴルフ旅行者が増えている。(旅行代理店)

建設業

業況、売上、採算

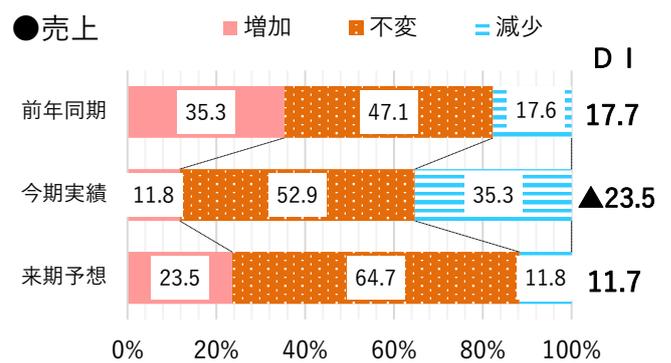
今期（H29.10～12）の業況判断DIは11.8で、前年同期(H28.10～12)と比べ11.7ポイント低下しました。

来期（H30.1～3）のDIは17.6で、今期と比べ上昇すると予想しています。



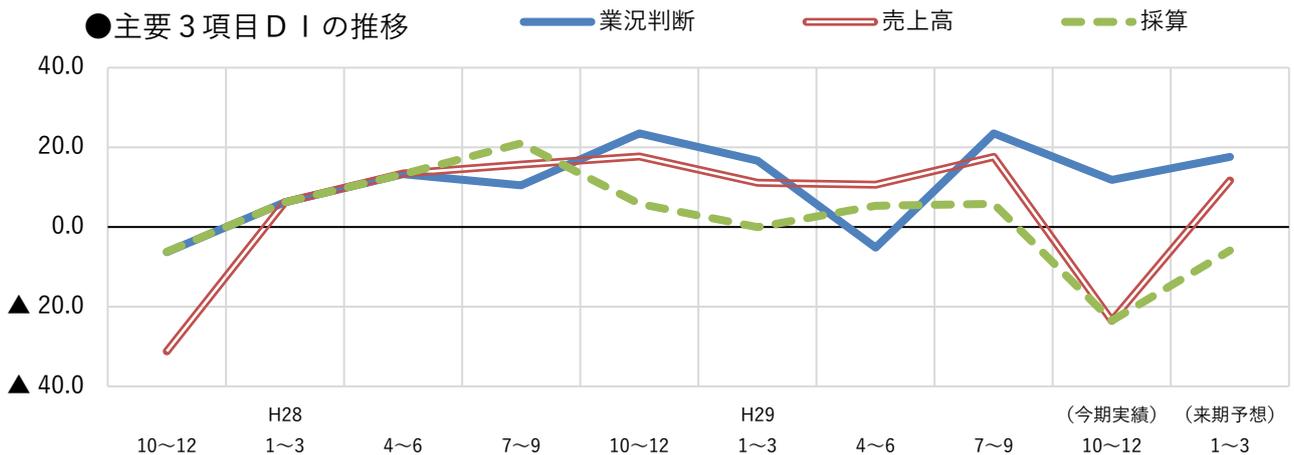
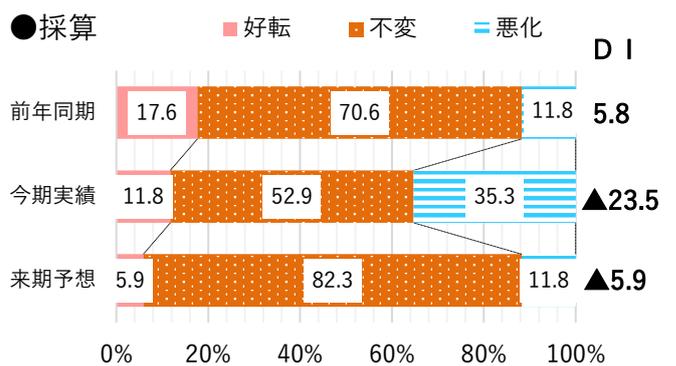
今期の売上高DIは▲23.5で、前年同期と比べ41.2ポイント低下しました。

来期のDIは11.7で、今期と比べ大幅に回復すると予想しています。



今期の採算DIは▲23.5で、前年同期と比べ29.3ポイント低下しました。

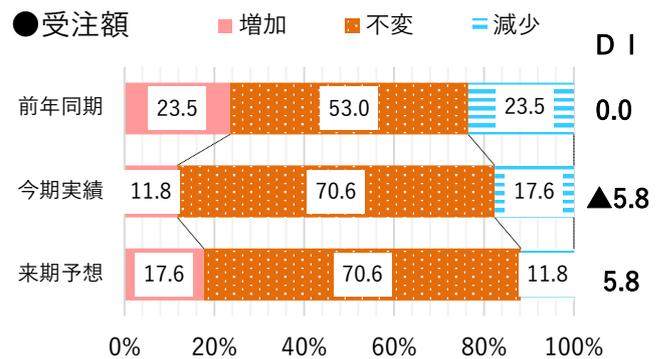
来期のDIは▲5.9で、今期と比べ回復すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）

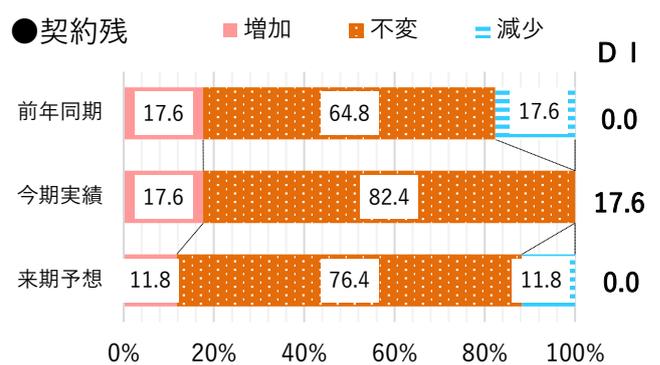
今期の受注額DIは▲5.8で、前年同期と比べ5.8ポイント低下しました。

来期のDIは5.8で、今期と比べ上昇すると予想しています。



今期の契約残DIは17.6で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

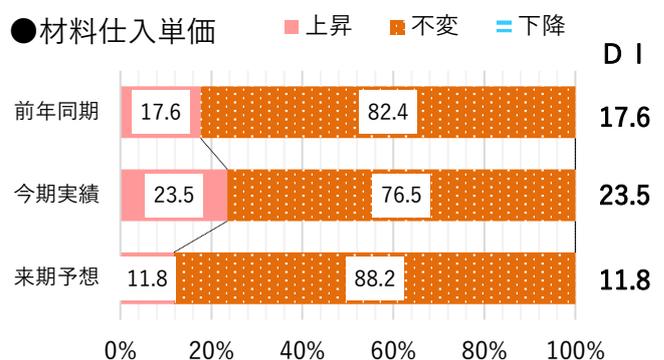
来期のDIは0.0で、今期と比べ減少すると予想しています。



材料仕入単価、従業員

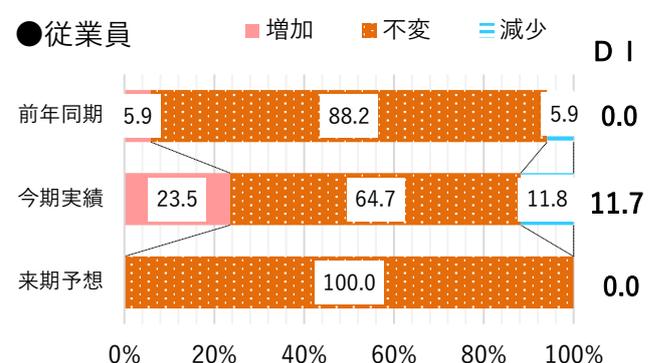
今期の材料仕入単価DIは23.5で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

来期のDIは11.8で、今期と比べ上昇感は弱まると予想しています。



今期の従業員DIは11.7で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。

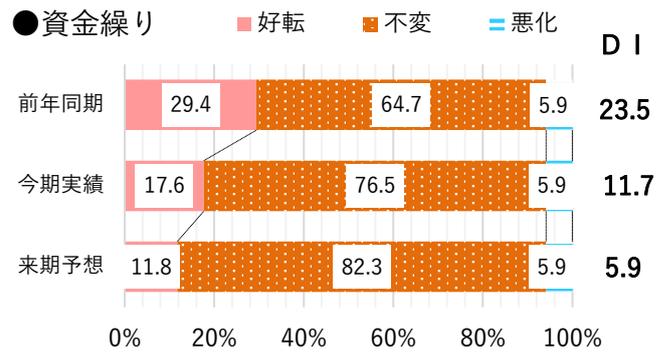
来期のDIは0.0で、今期と比べ人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

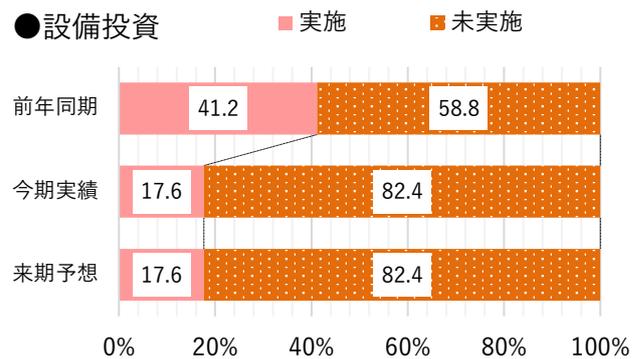
今期の資金繰りDIは11.7で、前年同期と比べ11.8ポイント低下しました。

来期のDIは5.9で、今期と比べ悪化すると予想しています。



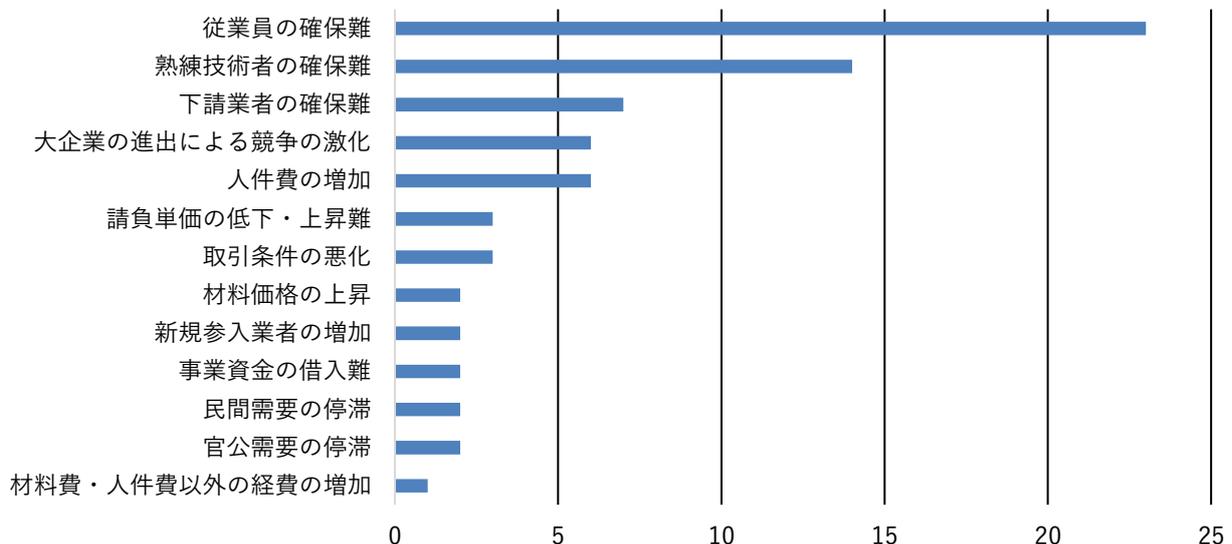
設備投資を実施した企業の割合は17.6%で、前年同期と比べ23.6%減少しました。投資内容は、1位が「建物」、 「車両運搬具」(同位)、2位が「土地」、 「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は17.6%で、今期並みと予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「下請業者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 公共工事の受注増加によって、業況は好転した。（造園業）
- 深刻な人手不足。（一般土木工建築事業）
- 小売店との取引が減少し、年々売り上げが悪化している。（職別工事業）
- 公共工事を中心とした土木工事の状況に大きな変化はない。かつては港湾工事のウェイトが高かったが、現在は建設・土木半々になっている。市外での工事は受注が多く順調である。（一般土木建築工事業）
- 業界の景況感が良いと思うが、自社は工期延長などの影響で売上が減少している。小樽市内での仕事が主であるが、公共工事、マンション、アパート、戸建てなど、建設需要は徐々に減ってきているように思う。（一般土木建築工事業）
- 生コンなどの高騰により、2次製品の価格が上昇している。鉄筋、石油製品全般も値上がりしている。（土木工事業）
- 原油価格の上昇により、関連製品が値上がりしている。資材・材料の確保はできているが、価格に転嫁できるか不安である。（設備工事業）

[来期の業況について]

- 人手不足が深刻で、先行きが不安。（一般土木建設工事業）
- 公共工事は国の予算付けが大きく影響するが、当面はこのままの状況が続くのではないかと。（一般土木建設工事業）
- 例年冬期は売上が悪化しており、今期も同じ傾向が予想される。（職別工事業）
- 今後も大きな工事が見込めないことから、小さい工事を積極的に受注していく。（設備工事業）
- これからの北海道の公共工事を考えると売上が伸びる要素はない。時代に順応していくことが大切と考えている。（設備工事業）
- 業況はじわじわ良くなっており、今後も少しずつ上がってくると思っている。（設備工事業）

市内企業倒産状況

平成29年10月~12月
負債1千万円以上、帝国データバンク調べ

倒産件数は4件、前年同期比増加
負債総額は282億8,500万円、前年同期比増加

	倒産件数		負債総額
	4件		282億8,500万円
前年同期比	件数 +3件 (前年同期 1件)		負債 +282億7,500万円 (前年同期 1,000万円)
■10月 建設業（負債4,500万円：販売不振による破産）の1件が発生した。			
■11月 卸売業（負債1億5,000万円：販売不振による破産）、卸売業（負債9,000万円：販売不振による破産）の2件が発生した。			
■12月 不動産業（負債280億円：民事再生）の1件が発生した。			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

平成29年10月~12月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は70件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は45棟163戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	70件		45棟163戸
前年同期比	件数 +4件 (前年同期 66件)		戸数 +0棟48戸 (前年同期 45棟115戸)